

鹿

児島・霧島山の麓、森の中に突如現れるアート空間、『鹿児島県霧島アートの森』。

霧島地域の豊かな自然の中で優れた芸術作品や自然に触れ親しんでもらう本格的な野外・国際・現代美術館として、2000年10月にオープンし、これまで200万人以上が来館しています。

修景や季節を生かした野外展示を主軸に、双方向型や参加型の展示、ワークシヨップなどにより、さまざまな可能性を持った交流の拠点です。

四季折々の自然に囲まれて、世界の現代アーティストによる巨大な彫刻たちとも出会えます。

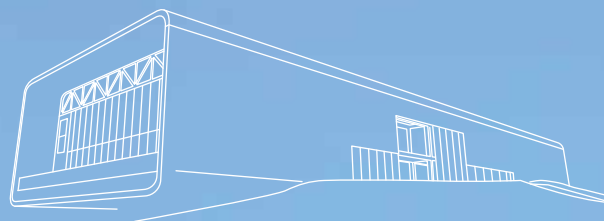
森を歩きながら作品を巡る体験は、まるで物語の中に迷い込んだよう。空気もおいしく、心まで洗われる場所。

芸術好きはもちろん、自然好きな方も訪れてみませんか？

特集

霧島アートの森

開館 25TH
ANNIVERSARY



ジョナサン・ボロフスキー《男と女》

25年の主な歩み

- 2000年 (H12) ・開園 館長に川口幹夫氏
- 2001年 (H13) ・第1回「発見楽しみ工房」
- 2002年 (H14) ・年間入場者数12.7万人(過去最多)
- ・開館2周年記念 建畠哲氏による特別講演
- ・チェ・ジョンファ氏によるアーティスト・イン・レジデンス(作家滞在型制作)
- ・岡本太郎と縄文展
- ・水玉の楽園 草間彌生展
- 2004年 (H16) ・野外作品所蔵(タン・ダウ、カサ格蘭デ&リンターラ)
- ・「YES オノ・ヨーコ」展
- 2006年 (H18) ・明和電機 ナンセンス=マシーンズ展
- 2009年 (H21) ・年間入場者数10.1万人(過去3番目最多)
- ・蜷川実花展 ー地上の花、天上の色ー
- ・鴻池朋子 インタートラベラー 12匹の詩人
- ・第100回「発見楽しみ工房」
- 2010年 (H22) ・開館10周年記念 「アートのまちづくりシンポジウム」湧水町共催
- 2011年 (H23) ・累計入館者100万人達成
- 2012年 (H24) ・野外作品寄託(椿昇)
- ・新館長 河口洋一郎就任(現館長)
- 2016年 (H28) ・「霧島ロビープロジェクト」「アートラボ」開始 国際交流や多様なアーティスト育成を支援
- 2018年 (H30) ・年間入場者数11.1万人(過去2番目最多)
- ・井上涼展 夏休み! オバケびじゅチュ館
- ・真鍋大度 の ライゾマテイクスリサーチ
- ・第200回「発見楽しみ工房」
- 2022年 (R4) ・開館20周年記念 チェ・ジョンファ展
- 2024年 (R6) ・累計入館者200万人達成
- 2025年 (R7) ・開館25周年記念企画 これまでの四半世紀を振り返りつつ、記念イベントなど多彩な企画を展開
- ・累計入館者数:約210万人(R7年8月現在)



2000年10月12日、さまざまなニーズに応じた皆に親しまれる地域文化資源の施設としてオープン。高階秀爾氏による開園記念講演が開催されました。

多彩な芸術活動で注目され、やがてその作風が水玉をあしらった華麗な立体へと発展した草間彌生氏。背面の作品は、中庭に展示された《赤い靴》2002年作。



創作活動や平和運動を行いながら、「愛と平和」のメッセージを世界に発信しているオノ・ヨーコ氏。写真は、来館したオノ氏と作品《絶滅に向かった種族(2319-2322)》部分。



入口ドアにおいて鮮やかな色彩の花で出迎えていた蜷川実花展。写真や映像など約400点が展示され、入場者は42,000人以上にものぼりました。



2017年霧島ロビープロジェクトにて、台湾のアジ・チェン氏による滞在制作作品。キャラクターが同心円のフォルムに変換された作品が数多く展示されました。



SPECIAL INTERVIEW

25年間を振り返ると、開館前の作品収集や当時の関係者の奮闘、台風時に野外展示を守る対策など数多くの苦労がありました。一方で昨年、来館者が200万人に到達し、お客様とくす玉を割るという節目も。数多くのファンや作家の方々を支えられてきたことを実感でき、大きな喜びとなりました。

当館は霧島の自然とアートが調和する、唯一無二の美術館だと思っております。何度訪れてもおもしろい場所だと、これからも皆様に思っていただけに、魅力的なイベントなどの仕掛けづくりに取り組んでいきたいです。



霧島アートの森
副館長 長友 洋子さん

